

夢のかけはし

安心して出産できる環境づくりに貢献したい。



昭和56年生まれ。医療法人 王産婦人科（寿4丁目）副院長。串良小学校卒業後に市外へ進学し福岡大学を卒業。福岡の総合病院に勤務した後、平成28年に大隅4市5町の期待を受け帰鹿し、産科医療に奮闘する。「趣味はバイク」と話す4児の父。（37歳）

地元である鹿屋・大隅の産科医療に貢献したい思いがあり、産婦人科医として勤めていた福岡を離れ、市内の産婦人科に赴任したのが3年前。それ以降、院長やスタッフ、他の医療機関等と連携しながら、診察や出産の対応などで忙しい毎日を送っています。

医療関係の仕事をしたと思うようになったのは、小学校の高校年の頃です。父の友人に医師がいたことがきっかけで、自然と興味を持ちました。

鹿児島市内の中学・高校を卒業後は、福岡大学の医学部に進学。研修医としてたくさんのお仕事を学び経験しました。数ある診療科の中で産婦人科医になろうと思った

のは、様々な医療現場で研修を積む中で、生命の誕生について強く関心を持ったからです。

大学卒業後は福岡の総合病院に勤務していましたが、大隅に産婦人科医が不足していることを耳にしていたため、いずれは地元に戻りたいとの思いがありました。そんな中、鹿屋の医療機関や行政の方などから声をかけていただいたことや、家族や地元の両親が理解し後押ししてくれたこともあり、帰鹿を決心しました。

当院には、妊娠した方や里帰り出産を希望される方などが、市内だけでなく大隅各地から来院されます。診察などは院長と私の2人体制。夜間の出産にも対応でき

産婦人科医

大久保 将礼 さん

るよう当番も決めています。

鹿屋に来て感じたことは、鹿屋では他の病院の先生と、会合や勉強会などで頻りに顔を合わすことが多く、医療機関の間で情報共有や連携がしやすいということです。また、県の医療センターが近くにあることも心強いです。

無事に出産された方やご家族から感謝の声をいただいた時は、うれしさとこの仕事のやりがいを感じます。地域の皆さんと医療現場とのつながりが強いことも、鹿屋で感じた魅力です。

これからも鹿屋・大隅で安心して出産できる環境を維持するため、できることを精一杯行い地域に貢献していきたいと思えます。



大久保さんが勤務する産婦人科の院内には陶芸などが飾られ、利用者やその家族がリラックスできる空間が広がる【右】。同院では1か月あたり約40人～50人の赤ちゃんが誕生している【左】。